

小学校

平成 12 年 度

教育研究員研究報告書

図画工作

東京都教育委員会

平成12年度

教育研究員名簿（図画工作）

地 区	学 校 名	氏 名
新 宿 区	余 丁 町 小 学 校	麻 佐知子
文 京 区	礫 川 小 学 校	小 野 崇
目 黒 区	大 岡 山 小 学 校	関 口 成 子
中 野 区	桃 園 小 学 校	◎堀 井 武 彦
足 立 区	鹿 浜 西 小 学 校	酒 井 義 夫
葛 飾 区	西 小 菅 小 学 校	工 藤 由 紀 子
武 蔵 野 市	第 三 小 学 校	丸 木 英 美
国 立 市	国 立 第 一 小 学 校	松 村 元 子
西 東 京 市	碧 山 小 学 校	下 釜 み どり
稲 城 市	城 山 小 学 校	竹 内 薫

◎世話人

担 当 東京都立教育研究所統括指導主事 岡 本 昌 己

目 次

I 研究主題	
1 研究主題について	2
2 授業のイメージ	3
3 研究の構造	4
4 視点について	5
II 実践授業	
1 「ふしぎなトゲトゲ」(第3学年)	6
2 「あお色の世界」(第5学年) ～他教科との関連を図った授業の工夫～	9
3 「ぼくのカブトガニ」(第4学年) ～他教科との関連を図った授業の工夫～	12
4 「かべ土のへんしん! ふわふわ+水=ざらざら??」 (第5学年)	15
5 「匂いからイメージして …かおりのハーモニー…」 (第5学年)	18
6 「なかよしヒーローにへんしん!」(第2学年)	21
III 研究のまとめと今後の課題	24

<概 要>

本研究では、研究主題を子どもたちの「感じる心をはぐくむ授業の工夫」とし、授業において日常的に行われている「場や環境の工夫」を、さらに広く多様な要素としてとらえた。「場や環境の工夫」の中で、教師と子ども、子ども同士の発信と交信の環が、さながら「メビウスの環」のように流れていき、子どもの「感じる心」を豊かにはぐくむことができるのではないかと考えた。

そのための授業における工夫の視点として、「時をとらえる」「空間を生かす」「素材を選ぶ」「展開をつくりだす」の4点をあげ、指導内容・方法の工夫・改善を図った。

I 研 究 主 題

感じる心をはぐくむ授業の工夫

1 研究主題について

子どもたちの「心」の問題について社会的関心が高まる中、図画工作科は、子どもたちの「心」に何を働きかけることができるのか。21世紀へと引きつがれる「心」というキーワードは、本主題設定の一つのきっかけとなった。「生きる力」を子どもたちに培うことが期待されている今、私達は「心」という、とらえにくく、繊細な存在の果たす役割の重要性を認めずにはいられなかった。なぜなら、21世紀をむかえ、子どもたちが複雑化した社会に主体的に対応して生きていくためには、溢れる情報の中から、自分にとって価値のある情報を受信（感じる）する「豊かな情操」を養っていく必要があると考えたからである。

「心」は蓋を開けて調べることができない一種のブラックボックスである。そこで、私たちは、子どもたちに可能な限り発想や展開の広がりを持たせ、子どもたちの「心」に質の高い造形的な働きかけを行う。そして、子どもたちの活動のプラス面とマイナス面を共感的に受けとめながら得られた情報から、子どもたちの「心」の構造を把握することができるのではないかという仮説をたてた。この働きかけを繰り返し、子どもたちと共に授業を創っていく過程で、より効果的に「心」を揺さぶり、「感じる心をはぐくむ」方策が見えてくると考えた。そして、この働きかけにおける情報のやり取りを「受信と発信＝交信」という概念でくり、その関係性を2次元に表現された「メビウスの環」にたとえ、交差する部分に隠されている神秘的な連続性に、言葉だけでは説明しきれない造形活動の特性を重ね合わせてみた。

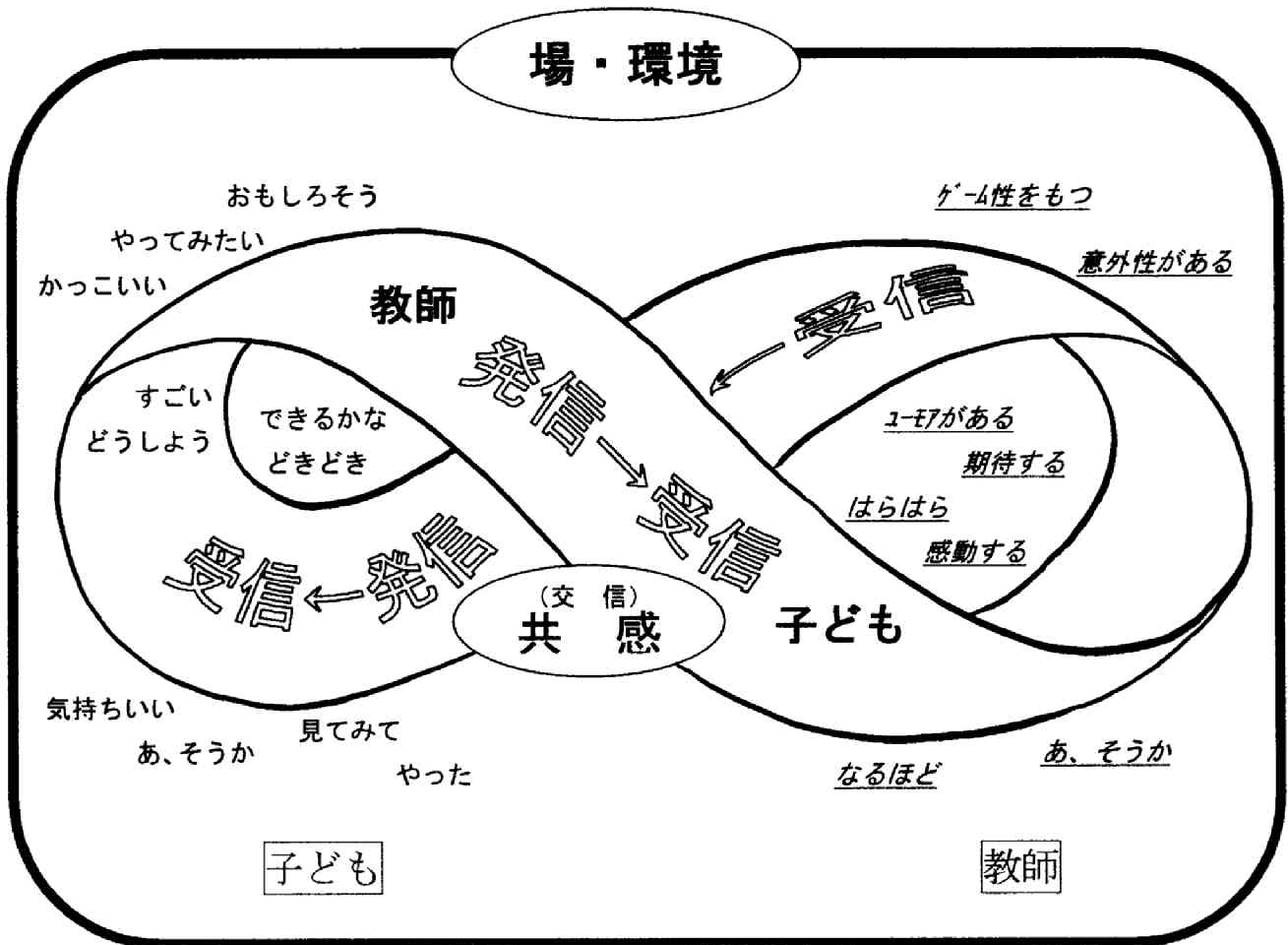
一般的に造形的な働きかけというと、授業を構成する題材、テーマ、材料、技法等の造形活動と直結する一面にのみ注目しがちである。しかし、教師が子どもによりそい、子どもたちが自ら「つくりだす喜びを味わえる」ように働きかけるには、この一面的な視点からだけでは見えにくい、授業を構成する多面的な構造の分析が必要であると考え、その結果浮かび上がったのが、従来、周辺的なものとしてとらえられがちであった場や環境という視点である。

- 場とは、子どもと教師、子どもと子どもの間でやり取りされる交信（受信と発信）の瞬間、すなわち場面であり、文字どおり交信が行われる場所をもさす。また、造形活動そのものから離れ、作品を発表、展示する場についての配慮も重要な要素と考えた。
- 環境とは、交信が展開される教室などの物理的環境、教材の工夫や子どもたちの資質・能力をも含めた創造活動に関与する要素としての環境、また、交信を通して新しく発生した環境（予測できなかった展開）等のことを意味する。

研究を進めるに当たって、私達は場や環境を、周辺的なものとしてとらえるのではなく、子どもたちの活動を支援する重要なものとしてとらえ、特に重点的に次の四つの視点を切り口として、より具体的な要素に細分化し、分類して研究を深めていくことにした。

時 間（い つ） 空 間（ど こ で） 素 材（な に を） 展 開（ど う す る）

感じる心をはぐくむ授業の工夫

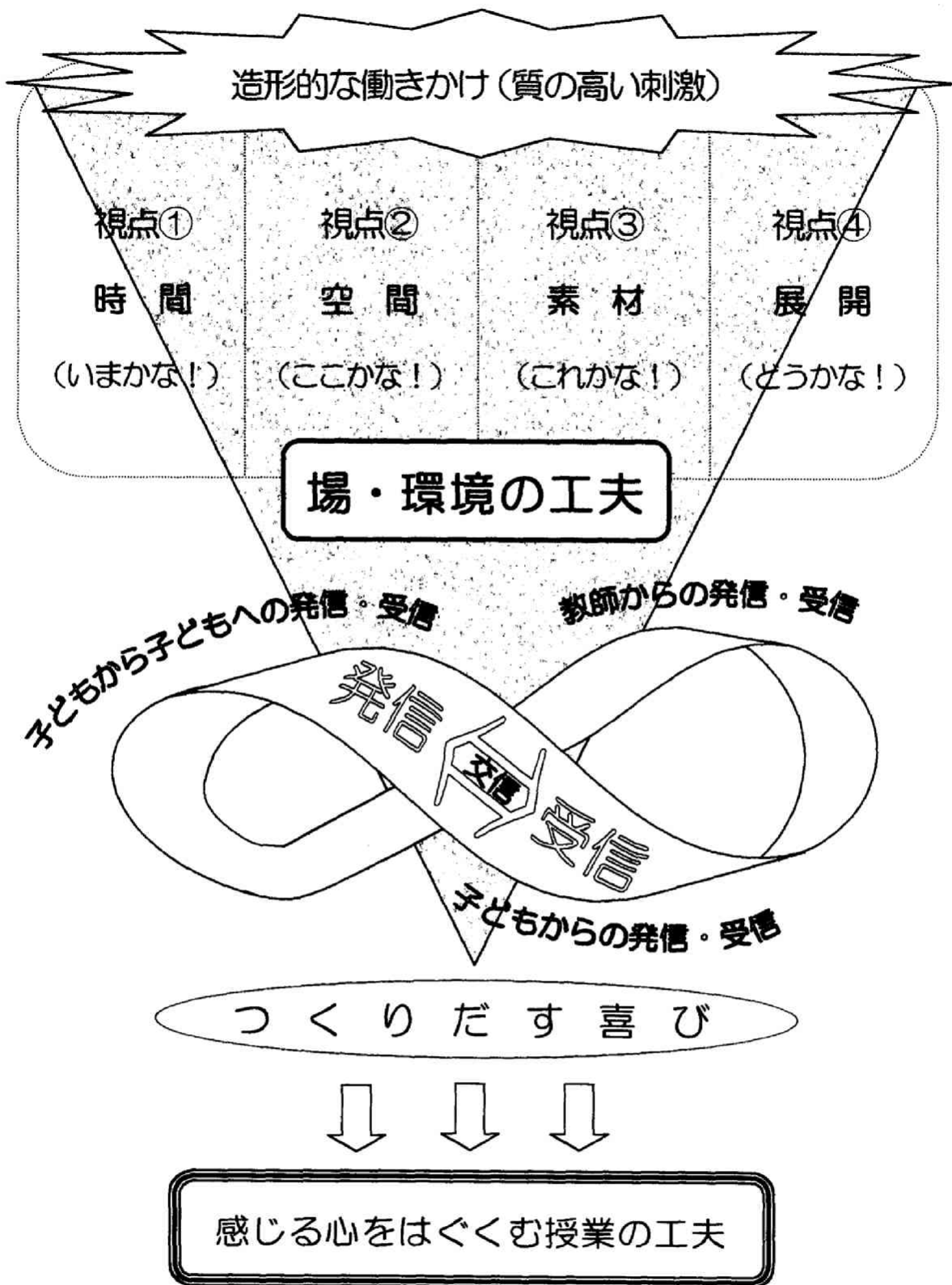


メビウスの環

子どもたちはさまざまな感覚で造形的な働きかけを受信（感じる）する。そして、その受信（感じる）は子どもの「心」を通して関心・意欲・不安・発見など、さまざまな発信（活動）を生む。

授業では、メビウスの環のように、教師からの発信・受信、子どもからの発信・受信、子どもから子どもへの発信・受信が無限に続き、働きかけ合って「感じる心」をはぐくんでいくと考えた。

3 研究の構造



4 視点について

「場と環境を工夫すること」は具体的には、時間（いつ）・空間（どこで）・素材（なにを）・展開（どうする）といった視点での働きかけを行い、子ども自らが感じる心はぐくみつつ方法（いかに表現するか）を生み出していけるよう授業を工夫することである。

視点①（時をとらえる）

タイミング・・・季節（動植物の変化 雲 光 気候 温度 風等）
体験（感動 発見 学習 生活 必然性等）
創造的スキル（発達段階 興味 自信 経験 記憶等）
心情（年齢 時の流れ 周囲・環境の変化等）
必然性（子どもにとっての必然性 教師の願い等）
教育課程（学校行事 総合的な学習との関連 他教科との合科
図工科で育てたい資質・能力等）

視点②（空間を生かす）

「発信」「受信」「交信」ができる場・・・話ができる。

やりたいと考えたことができる。

自分に問いかける緊張感をもてる。

安心して活動ができる。

展示・アピールする場・・・・・・・・・・アピールの方法を子ども自身が考えられる。

展示を見て製作過程が分かり期待感をもてる。

子どもにとって使いやすい場所・・・・・・・・・・使いたい物がどこにあるかが分かる。

使いたい物が安全に自由に使える。

表現にあった活動ができるスペースがある。

視点③（素材《題材・材料・用具》を選ぶ）

おもしろい・・・形 変化 動き ユーモア ゲーム性

気持ちいい・・・感触 かおり 音色

知っている・・・学んだことがある。経験・体験したことがある。生活に身近だ。

扱いやすい・・・思い通りにできる。容易にできる。

抵抗感がある・・・どうしよう。こまった。失敗しそう。難しそう。緊張する。

興味深い・・・初めて体験する。意外に感じる。記憶にある。

視点④（展開をつくりだす）

子どもがつくる・・・・・・・・・・子どもが表現手段を選択する。子どもにまかせる。

子どもとつくる・・・・・・・・・・子どもと共に表現手段を考える。弾力的な展開

行きつ戻りつできる・・・・・・・・・・進み、戻り、また進むことが可能な題材の展開

かわりものもてる・・・・・・・・・・共感 共有 協力 同調 提案 批評 疑問 理解

伝えることを考える・・・・・・・・・・プレゼンテーションの工夫をねらいにした表現活動

Ⅱ 実 践 授 業

1 題材名 「ふしぎなトゲトゲ」 (第3学年)

題材について

表したいものを表すために材料などの特徴をとらえて選ぶ力や、つくりたいものをつくるための技能などの資質・能力も子どもたちの造形的な創造活動を思いのままにできるための環境と考えた。

木工用具は、3年生に、安全指導も含めて導入として扱い始めるには好奇心旺盛な時期なので適切である。そこで、ただ、のこぎりやくぎ打ちを扱うだけではなく、自分たちで素材をつくる・長さの違ったくぎを打ったり工夫を加えたりして打つ行為を通して、その子らしい感じ方から表出物が生まれてくるのではないかと考えた。

- ①時をとらえる・・・今までに扱ったことのない用具・教材を初めて使う。
- ②空間を生かす・・・図工室で「ふしぎなトゲトゲ」という語感からの発想。
- ③素材を選ぶ・・・素材からの印象、感触。
- ④展開をつくりだす・・・自分で素材をつくる。



本来は形のないもの、具体物として存在しないものをつくる。

これらの刺激が次第に子どもたちの中で無意識に何かになっていくことを願った。

ねらい

- ・木工用具（のこぎり・金づち・くぎ）を扱い、今までになかった表現方法を知る。
- ・くぎ打ちを楽しみに、自分らしい感じ方や自分らしい工夫を加える力を伸ばす。

学習の流れ（4時間）

① 時 を と ら え る	② 空 間 を 生 か す
<ul style="list-style-type: none"> ・ 図工の時間 ・ 扱う素材の多くなる 3年生 1学期中頃 ・ 初めて扱う木工用具 ・ 何だか一生懸命やったような気がする、 ちょっと汗ばむ6月頃 <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">慎重に！ねらいを定めて。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少し慣れてきた図工室 ・ 片づけはするけれど散らかしても大丈夫な図工室 ・ いろいろな道具が揃いそうな図工室 <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">わーい、前の時間につくった木だよ！ これにトゲトゲつくるの？</p>

材料・用具

(教師) のこぎり、金づち、くぎ(各種サイズ)、くぎぬき、必要に応じて工夫した道具
(子ども) 工夫した道具、ばんそうこう

考 察

今回の授業では、子どもたちが何かをしたくなるような素材で、のこぎりの扱いやくぎ打ちが子どもたちの創意工夫で発展していくことを願った。角材を切り落とした後の切り口の形や様子を見比べ合ったり、くぎの大小を並べて模様をつくってみたり、工夫した道具をくぎで角材に付けてみたり、それぞれがぶつかって出る音を楽しんだり、とその活動は角材とくぎを中心に様々な造形遊びの活動をも引き出していたようである。

途中でくぎ打ちを促す「もっともっとトゲトゲ」、色の意識を促す「色いろぬりぬり」、創意工夫を促す「工夫がいっぱい」という『ふしぎさの増すおまじない』を紹介し、意識や心情面に働きかける環境を設定してみることで、子ども同士でのことばかけや励まし合いが多くなった。また、工夫に対しての情報も多くやり取りされるようになった。

指導者側の最初の「発信」の段階で技能面に重きを置くのか、発想・創意工夫に重きを置くのかの迷いがあった。それは、そのまま子どもたちの活動の行く先への戸惑いになったようである。最初の「発信」は「あれもこれも」ではなく、的確な一つが必要とされ、それを「受信」した側からの「発信」に呼応すればよいのだと気が付いた。

③ 素 材 を 選 ぶ	④ 展 開 を つ く り だ す
<ul style="list-style-type: none">・長い角材・のこぎり・金づち・くぎ・くぎぬき <div data-bbox="288 1263 644 1317" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">初めて扱う木工用具</div> <ul style="list-style-type: none">・水彩絵の具・工夫した道具 ・ボンド <div data-bbox="252 1467 730 1825"></div> <p>これは、工夫の道具として使えるかな？</p>	<ul style="list-style-type: none">・のこぎりを使って角材を切る (自分で使う素材をつくる) <div data-bbox="836 1211 1385 1265" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">のこぎりを使って切ってみよう</div> <ul style="list-style-type: none">・くぎ打ちを促す (「ふしぎなトゲトゲ」という 名前からのイメージ) <div data-bbox="836 1451 1385 1550" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">くぎを打って 「ふしぎなトゲトゲ」をつくらう</div> <ul style="list-style-type: none">・なおいっそうくぎ打ちと工夫を促す ふしぎなおまじないの提案 <div data-bbox="836 1644 1385 1845" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">・もっともっとトゲトゲ ・色いろぬりぬり ・工夫がいっぱい</div>

発信 ↔ 交信 ↔ 受信

受信 ↔ 交信 ↔ 発信

教師の支援

子どもの活動

のこぎりを使って切ってみよう

初めて扱う木工用具

のこぎりをよく見てごらん!!
刃の荒い目、細い目があるでしょ。
いろいろ使ってみたら?

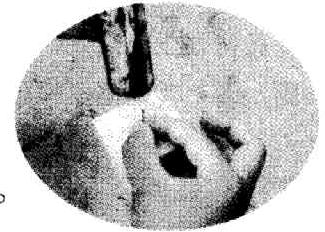
くぎを打って

「ふしぎなトゲトゲ」をつくろう!

むちゃくちゃではなくステキに好きなだけ
くぎを打ってもいいんだよ。



いろいろな面に打っても
いいんだよ。



てっぺんにもうっちゃえ!

工夫ってどんなことするの?

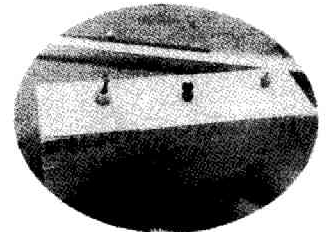
あっ! 工夫の道具を使ってもいい?

もちろん!

たくさん工夫をしてね。

不思議さのますおまじない

- ・もっともっとトゲトゲ
- ・色いろぬりぬり
- ・工夫がいっぱい



ビーズを二段にしたよ!

学校にあるものなら使ってもいいよ!

用意できるものは用意するよ!!

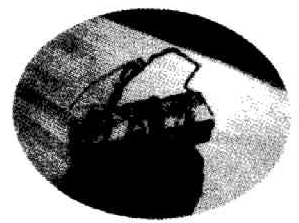
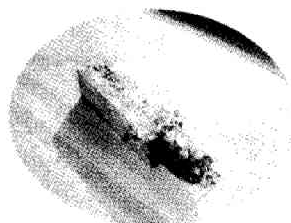
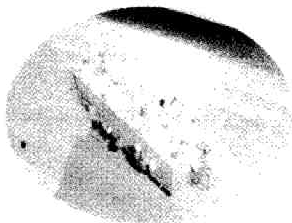
できた! 完成!!

いろいろなトゲトゲができたね!

ほら! 音がするよ!!

何だかおもしろいね。

楽しいね!



2 題材名 「あお色の世界」 (第5学年)～他教科との関連を図った授業の工夫～

題材について

第5学年国語教材の中の物語「きつねのまど」を子どもたちは学習してきている。「きつねのまど」は、杉林の中に忽然と現れた桔梗の野原で、きつねが営む染物屋の話である。きつねに青く染めてもらった指が不思議な力を現す物語で、桔梗を染料に使ったり、場面の様子や挿絵が青色に描写されたり、青色が美しく表現された物語でもある。この学習を受けて今回の研究の視点である、

- ①時をとらえる・・・国語科の学習の発展
- ②空間を生かす・・・担任との授業
- ③素材を選ぶ・・・初めて使う画材
- ④展開をつくりだす・・・イメージにあった色づくり

を大切に「あおの世界」をつくりだす活動を計画、実践した。

子どもたちは、「あお色」が大好きである。自然の中に見られる「あお色」。生活の中に表される「あお色」、様々な「あお色」に触れている。初夏の爽やかな風に心地よさを感じながら、改めて「あお色」に目を向けなおし、自分のイメージする「あお色」づくりを通していろいろな「あお色」に出会い、感じる心を膨らませながら表現する力をはぐくんでいきたい。

ねらい

- ・「あお色」づくりの活動を通じて、自分らしい感じ方を見つけたり、色づくりを工夫したり、楽しんだりする。
- ・互いにつくりだすいろいろな「あお色」に触れながら、自分らしいよさを発見し、友達の発想や工夫にも気付く。


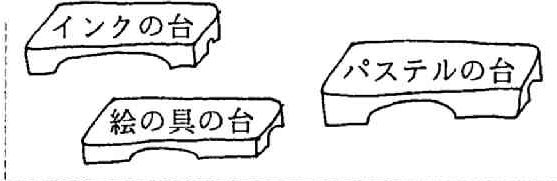


材料・用具

- ・絵の具、インク、パステル
- ・画用紙、版画用紙、ケント紙
- ・絵筆、絵皿、スポンジ、ブラシ、網

考 察


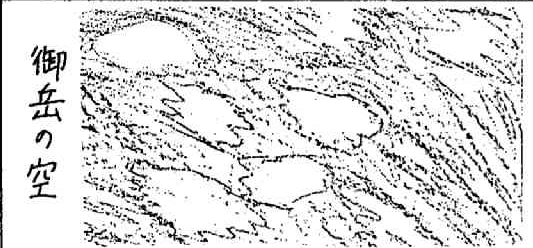
- ・これまでの経験や学習を生かして、豊かな発想を生み出し表現する活動を十分に楽しむことができた。
- ・インク、パステルなどの新しい素材を取り入れたことにより、子どもたちがより活発に色づくりに取り組むことができた。
- ・互いのイメージを表現したものを示し合うことで、鑑賞する楽しみや共感できる心をはぐくむことができた。

学習の流れ（3時間）

	①時をとらえる	②空間を生かす
○ 出 会 い 1 時 間	<p>国語の学習を生かして</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語教材「きつねのまど」に広がる、あお色のイメージ <p>季節を感じて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月末初夏の空、爽やかな風 <p>体験学習を終えて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月始め、御岳山への移動教室 	<p>教室で担任と</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語の授業の発展として「あお色」のイメージに着目 <p>図工室で担任と</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段の専科の授業から離れての図工室での活動
○ 広 が り ・ 深 ま り 1.5 時 間	<p>めあてに合わせて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分なりに時間をみながら、いろいろな素材に挑戦する。 	<p>材料ごとの作業台</p>  
○ 満 足 0.5 時 間	<p>すぐに鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できあがった作品をその場で展示して、互いに見合う。 	<p>掲示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室の壁面（横、後ろ）に張った針金に随時、作品をぶら下げて乾燥と同時に鑑賞する。 

<p>③素材を選ぶ</p> <p>国語教材「きつねのまど」</p> <ul style="list-style-type: none"> • あお色の場面を書き出したり、桔梗の花の色を想像したりする。 <p>色画用紙・折り紙・色和紙</p> <ul style="list-style-type: none"> • 色からのイメージを言葉に表す。 	<p>④展開をつくりだす</p> <p>「あお色」のイメージ</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>空 晴れの日、曇りの日、雨の日 御岳の青空、汚れた空、など</p> <p>海 透き通っている、深い、台風 ハワイの海 など</p> </div>	<p>○ 出 会 い</p> <p>1 時 間</p>
---	--	---

あお色の世界をつくろう！

<p>材料・用具</p> <ul style="list-style-type: none"> • 絵の具、インク、パステル • 画用紙、版画用紙、ケント紙 • 絵筆、絵皿、スポンジ、ブラシ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">  </div>	<p style="text-align: center;">あお色 づくり</p> <p>インクをつかってみよう</p> <p>ケント紙にぬってみよう</p> <p>インクは、すき通った感じ</p> <p>御岳の空は こんな感じ</p> <p>絵筆のほかにブラシを ためしてみよう</p> <p>自分の感じ に近づける</p> <p>パステルは色をまぜると やわらかい感じ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: 5px; top: 5px;">御 岳 の 空</p>  </div>	<p>○ 広 が り ・ 深 ま り</p> <p>1.5 時 間</p>
--	---	---

<p>表示</p> <ul style="list-style-type: none"> • イメージしたあお色の世界に自分らしい表題を付けてみる。 <div style="display: flex; flex-wrap: wrap; gap: 10px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">透き通った海</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">深いプール</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">サンゴ礁の海</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">夕方の西の空</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">御岳の空</div> </div>	<p>この青色すごくきれいだね</p> <p>ハワイの海っぼいね</p> <p>このぬり方うっほいね</p> <p>夕方の空の 感じでてるね</p> <p>この青どうやって つくったの</p>	<p>○ 満 足</p> <p>0.5 時 間</p>
--	--	---

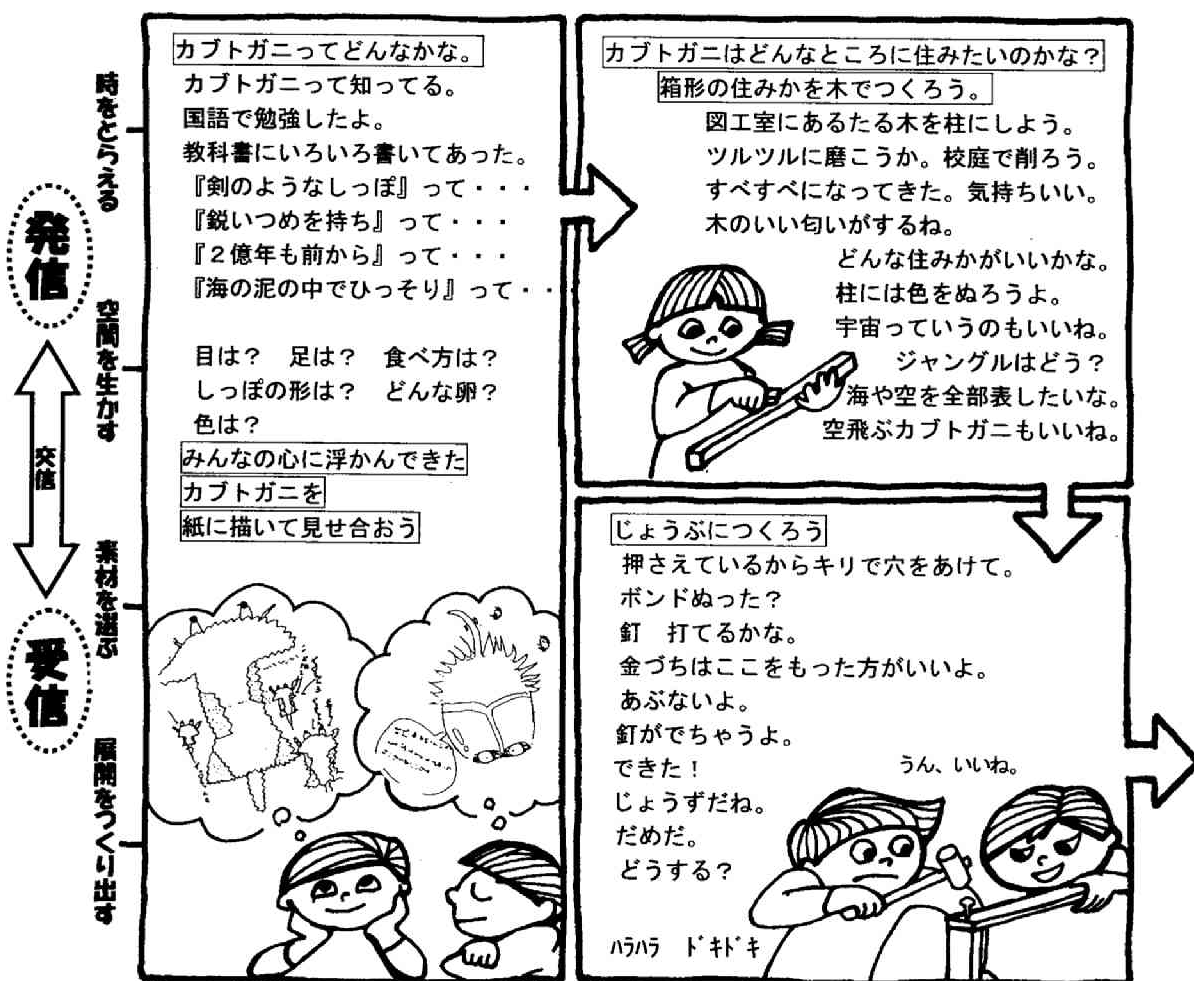
3 題材名 「ぼくのカブトガニ」 (第4学年) ～他教科との関連を図った授業の工夫～

題材について

他教科も図工室で、図工も図工室以外の場所で、表現や鑑賞の活動を広く展開できるのではないか。そんな思いから4年生の国語教材「カブトガニを守る」を題材として取り上げた。子どもにとっては未知に近い生物で発想に自由さがあること、また『カブトガニを守るが人間(自分)を守ることにつながる』という結びの文章があり、子どもたちにとっては同化しやすく容易に自分の思いや願いをカブトガニにたくすことができるのではないか。加えて、カブトガニに心を寄せて表現することで、国語科の限られた時間内での説明文の学習を、立ち止まり改めてその存在を見つめ自由な想像をめぐらせて、より身近なものとして感じていけるのではないかと考えた。

自分らしさを生かして材料や表現方法を工夫してつくることで思いや感じ方を深め、またカブトガニのすむ世界をグループで表していくことによる活発な表現活動を期待したい。作品は互いに、あるいはグループでよいところを見つけ合ったり、他の多くの人に見てもらうにはどうしたらいいかを考えたりして、満足感や達成感をもたせたいと思っている。

教師と子ども、そして子ども同士で言葉や表現、感じ方をやりとりする中で、子どもが自らの感じる心に気付き、それを大切に思えるようになってほしいと願っている。



- ① (時をとらえる) ・国語の学習で知ったカブトガニのイメージを深め広げて、身近に感じる。
- ② (空間を生かす) ・他教科の単元から題材を取り上げることで、図工室は自由な表現の場であることを改めて確認する。
・住みかは大きいしみんなで工夫してつくりたいから、床の上でつくる。
机の上ののってつくる。
- ③ (素材を選ぶ) ・題材を他教科の単元から取り上げる意外性
・工具を初めて使う。
- ④ (展開をつくりだす) ・子どもが表現手段を選択する。
・個人あるいはグループでと、活動が行きつ戻りつする。
・話し合い、鑑賞し合う中で、友達・グループ・クラスでかかわり合う。
・製作途中の作品が常時展示され、見通しや期待感、意欲をもつ。


ねらい

- ・夢や発想をもとに表したいことを感じとり、材料やつくり方を工夫して自分の思いを広げる。
- ・カブトガニに愛着をもち、友達と協力し、進んで「カブトガニの世界」を表そうとする。
- ・作品に題を付け、自分や友達、他のグループ作品のよさを知る。

材料・用具

教師 たる木、共用絵の具、針金、たこ糸、強力接着剤、ホットボンド、ポスカ、プラ板、キリ、ペンチ等の、つける、広く塗る、つるす、つなげる等の活動に対応できるもの。

子ども はさみ、接着剤、個々の表現に必要な材料、絵の具



自分のつくり方で
カブトガニをつくらう。
とげとげの感じはこれを使おう。
つめは粘土でつくりたいな。
毛糸を巻き付けてもいいね。
ここに水を入れて透き通るようにしたいな。
このしっぽは動くようにしたいな。

カブトガニを住みかにおいてみよう。
ほとんどのカブトガニはここからつるしたいな。
ここは色を変えて緑を濃くしよう。
ここにラップを張ると透き通って水面みたいになるよ。
天井をつけたいな。どうしようか。
仲間を作ろうよ。イカにする？ たこ大王がいい。
えさを置こう。えさは何にする？
木にセメダインをつけて光らせようよ。

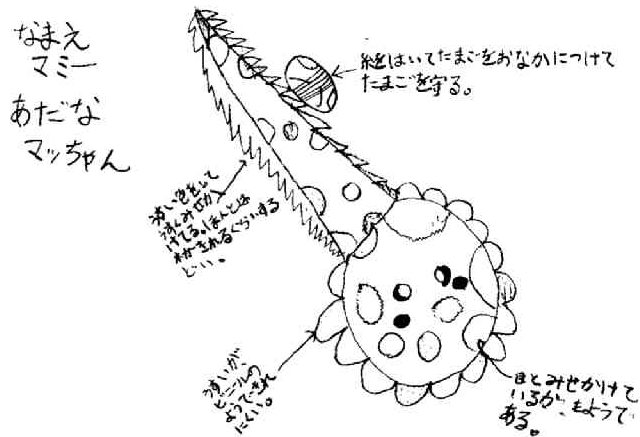
よいところを教えてください。
いいね。
なるほど
気持ちよさそう
よいアイデアだね。
この飾り方おもしろいね。
本物の砂を使っているところがいいね。
海の底のところにビー玉を使っているから光ってきれいだ。
カブトガニが今にも動き出しそうだ。
仲間が集まってきそうだね。

どこかに飾って
学校みんなに見てもらおう。
花壇のところがいいな。
周りに木がたくさんあるところがぴったりだよ。
明るい光がたくさんある所がいいね。
風が吹くとしっぽが動くね。

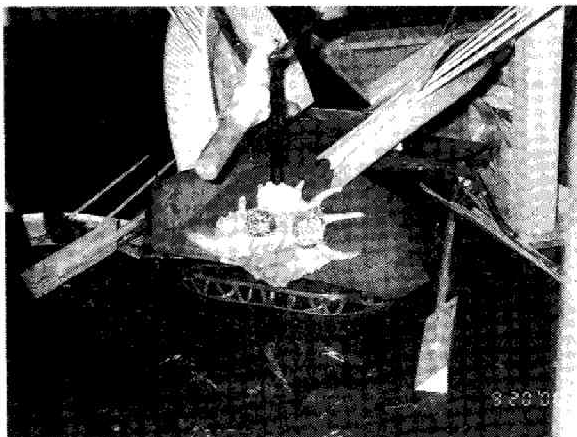
考察

国語のカブトガニの学習が終わる時期をとらえ、そのまま教科書を図工室にもちこんだ。

最初は（なぜ国語を図工室で？）といぶかっていた子どもたちも意外な展開にすぐに興味を示し、文章のなかの一語一語に個々のイメージをもち、言葉や絵に表すことを楽しみ始めた。そして、子ども自身がカブトガニの気持ちになって、その姿形・住んでみたい場所に思いをめぐらせて材料を集め、他にない方法で表現しようと工夫していった。カブトガニは個々で、住みかはグループでつくったため、子どもたちは一人の世界・グループの世界を歩きつ戻りつしながら協力し合ったり共感し合ったり、意見を出し合ったりして活発な表現活動をしていった。友達と様々なかかわりをもちながら表現していくことは、自分の感じ方を深め広げ、さらなる意欲へとつながるものと思われる。選んだ材料を持ち寄ってカブトガニの住みかを飼育箱のように作りあげていく様子は、子どもたちがカブトガニになりきって自分にとっての心地よさを求め、それを感じながら表現しているようだった。



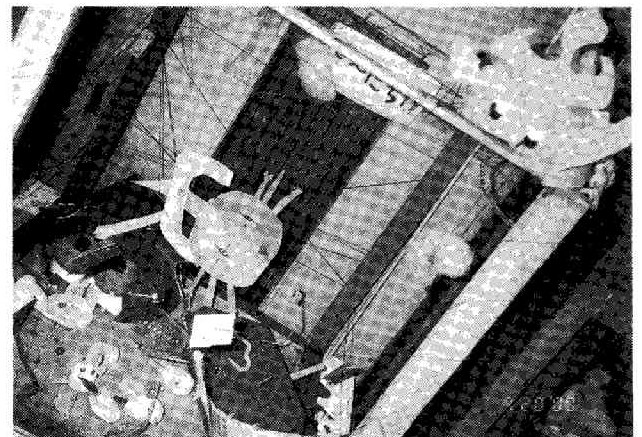
「カブトガニは海の底のどろの中で、何を思っているだろう。」など言葉や文章から浮かぶイメージを話し合った。「心に見えたカブトガニを見せ合おう。」と子どもたちが個々のイメージを描いた。



他にない材料や方法で表現しようと、子どもたちはそれぞれの思いにあった材料を選び、切る・接着する・つなげる・加える・彩色するなどして自分らしい作品づくりをしていった。



木の香りを感じながら磨いた垂木を柱にしてグループで箱形の住みかづくりをする。グループの中に（アイデアを出す）（励ます）（注意し合う）（賞賛する）（驚く）（緊張する）など様々な声が飛び交った。



『2001年カブトガニの旅』『カブトガニの樂園』『宇宙で遊ぶカブトガニ』などグループで話し合っ て決めたイメージに近付けようと、材料や色の特長を生かしてつくっていった。

4 題材名 「かべ土のへんしん！ふわふわ+水=ざらざら??」（第5学年）

題材について

壁土という素材は一般には建築内装用として使用されるものだが、その扱い易さと壁土のもつ独特の質感や軽さ、触れた時の感触などを生かして作品に活用できないかと考えた。子どもの思いを大切にするためにも、表現方法にある程度幅がある素材の一つとしても壁土は適している。今回は、図工室で製作した作品を最終的には図工室外（校舎内外、学校付近）へ持ち出し、材と場の両方から子どもの自由な発想力や想像力を引き出そうと試みた。また普段から見慣れている校舎の一角や教室の片隅に自分の作品を置くことで、改めて作品のもつ存在感や環境とのかかわりを見つめ直し、子どもの考えや思いを深めるきっかけにさせたい。

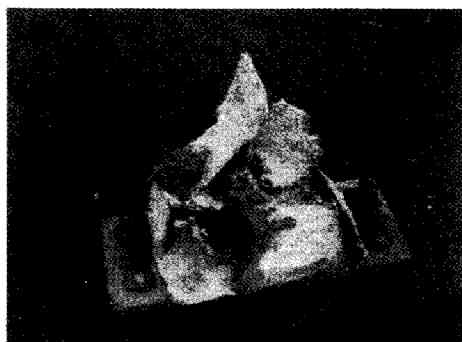
- ①時をとらえる…“作品のイメージに合った時間”を自分で決める。
- ②空間を生かす…“作品が似合う場所”を自分で探す。
- ③素材を選ぶ…壁土という意外性のある素材感を楽しみ、作品に生かす工夫をする。
- ④展開をつくりだす…自分らしい表現方法を選択し、作品への思いを深める。

ねらい

- ・壁土の素材感を生かした作品づくりを通して、自分らしい感じ方や表現力を伸ばす。
- ・自分の作品を飾る場所を自ら探すことで、作品と場（環境）とのかかわりについての考えや思いを深める。
- ・造形活動を通して、友達や周りの人から影響を受け共感し合う。

材料・用具

壁土（建築内装品）、段ボール、粉絵具、水彩絵具、ボンド、パステル、マジック
バット等大きな入れ物、段ボールカッターナイフ、カッターナイフ、デジタルカメラ



「ブランコ城」

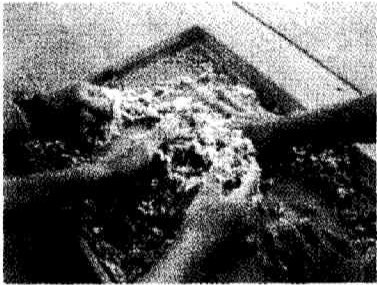


「ひまらや杉にひそむ男」



「木といっしょに」

学習の流れ（6時間）

	① 時をとらえる	② 空間を生かす
なげかけ	<ul style="list-style-type: none"> ・時間にこだわった作品づくりをしよう。 いつにしよう 明るい時間がいいいかな 夕方もいいな 	<ul style="list-style-type: none"> ・場所にこだわった作品づくりをしよう。 どこにしよう あそこがいいいかな どこでもいいの？
活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> ① 段ボールで土台づくり ② 壁土づくり（グループごと） <ul style="list-style-type: none"> ・「ふわふわ」の壁土に触れる。 ・水を入れて「ねちゃねちゃ」練る。 ③ 土台に壁土を付ける <ul style="list-style-type: none"> ・指で少しずつ付けていく。 ④ 乾いた感じを楽しむ <ul style="list-style-type: none"> ・「ざらざら」になった表面に触れる。 時間が増えてカチカチに固まったよ ⑤ 作品が似合う時と場で写真撮影 <ul style="list-style-type: none"> ・いつがいいいかな、自分で決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を飾る場所によって大きさや形を工夫する。 大きすぎるかな へんかな？  <ul style="list-style-type: none"> ・作品にはどこが似合うか、実際に歩いて探す。 ここがいいいかな あそこもいいな 軽いから、どこへでも持っていけるね
支援	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な時を選べることを提案する。 ・こだわりをもつことを重視させる。 <p>例：図工の時間、朝、放課後、夕方、晴れた日、雨の日、曇りの日など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場所を選べることを提案する。 ・一人一人にゆっくり歩いて探させる。 <p>例：教室、図書室、廊下、屋上、トイレ、校庭（木のそば、砂場、飼育小屋、遊具の上、体育館の裏…）など</p>

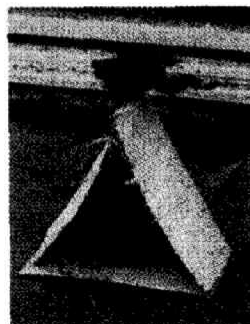
考察

使い慣れた段ボールと初めて体験する壁土を用いて、平面・立体といった表現方法にとらわれない幅の広い展開ができた。壁土の不思議な感触を楽しみながら、飾る場所を考えて製作するなど見通しをもって活動を進める子どもも多く見られた。また出来た作品を持って“似合う場所”を探す活動も、新鮮に感じられたようである。壁土は厚みのあるものだと乾燥に多少時間を要するが、子ども一人一人がイメージや思いに合わせてじっくり製作できるため、低価格で多様な表現が可能な素材の一つである。

③ 素材を選ぶ	④ 展開をつくりだす
<ul style="list-style-type: none"> • 乾くと軽くなる壁土を使ってみよう。 • 壁土の不思議な感触を楽しもう。 「始めはふわふわ おもしろそうだな 水を混ぜるとねちゃねちゃ 乾くとざらざら」 	<ul style="list-style-type: none"> • “作品が一番似合う場所” に飾ろう。 • “作品と周りの空間全て” を一つの作品とするよ。 • どんな感じになるか見てみよう。
<ul style="list-style-type: none"> • イメージに合わせて適当な段ボールを選び形にしていこう。 • どの段ボールがいいかな • 水を入れた壁土を、耳たぶくらいの硬さになるまで練る。 なんだろう？ この感触は… • 壁土の不思議な素材感を生かして工夫をする。 • 色を付けたり、壁土の付け方を工夫したりして自分のイメージに近づけていく。 ここはわざと壁土を付けないよ 粉絵具できれいな色の壁土ができた • 乾いた壁土の感触を味わおう。 すごい、ざらざらになったよ • 作品を置いた場所の、周辺の感じにもこだわる。 となりに枯葉を置いてみよう 	<ul style="list-style-type: none"> • 友達の活動を見て、自分の作品にも応用できそうだったら試してみる。 そうか、なるほど うわ、すごいね どうやってつくったの？ • グループで作った壁土をお互い交換し合うなどして、友達とかかわりをもつ。 この壁土、きれいだね 交換しよう • 自分で決めた時間や場所に作品を置いてみて友達と評価し合う。 こんな感じになったよ • 作品にタイトルを付ける。 なんて付けようかな…
<ul style="list-style-type: none"> • 壁土そのものの素材感や感触を十分に楽しませた後、粉絵具を混ぜて色付の壁土が作れることを伝える。 • 壁土の付け方もいろいろあることに気付かせ、それを作品に生かせるように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> • 撮影した写真に「感じたと思ったこと」を書いた用紙（教師からの一言もそえる）を付けて、廊下に展示する。 • 他学年の人にも鑑賞してもらい、自分たちの活動を振り返るよう促す。



なんだろう？この感触…



「古い三角捨てられた三角」



「ドクベイ」

5 題材名 「匂いからイメージして …かおりのハーモニー…」 (第5学年)

題材について

ものにはそれぞれの匂いがあり、私たちはいろいろな匂いに囲まれて生活している。匂いは、人の記憶の中からいろいろなことを呼び起こすことができる。一つの匂いによって時間や空間を飛び越えて、あることを思い出したり、イメージが頭の中をよぎったりする。ふだんの生活の中で、何気なく通り過ぎてしまうこの《匂い》に視点を当て、子どものイメージを引き出すきっかけに出来ないかと考えた。目に見えないものを媒体としているので、自由な発想から表現方法にも広がりが見られるのではないかとと思われる。また、段階を追って作品にしていくことによって、イメージしたものをより明確にしやすくなるのではないかと。自分らしさを生かしての作品づくり(材料や表現方法など)を通して、新たな表現の発見や、深まりを期待した。

作品の展示の仕方についても、自分はこう発表したいという思いを込めさせたいと思う。

学習の流れ(12時間)

バージョン1(2時間)・バージョン2(2時間)・バージョン3(6時間)

まとめ(2時間)

*教師の支援

		① 時をとらえる	② 空間を生かす
匂いを表色そでう	バージョン1	匂いからイメージしよう 〈これは何だ〉 〈いい匂い〉 〈くさい・これはいやだ〉 *匂いから思い出すものはないかな。	5つの匂いの箱を置いてある図工室 〈この匂い知っている〉 〈たくさんつくっていいの〉 〈〇〇にいたい〉
平気になる表現匂いよをう	バージョン2	匂いの中から一つを選び自分のイメージで平面作品にしよう 〈〇〇さんおもしろいことやってるよ〉	〈好きにやっていいの〉 *できたらイメージ通りかどうか、黒板に貼って確かめよう。
立気になる表現匂いよをう	バージョン3	平面作品を見ながら立体のイメージをふくらませ、計画書を作ってから立体にしよう 〈立体にするの面白そう〉	*計画書にはデジカメで撮った写真を使おう 〈何使ってもいいの〉
ミニを展覧よをう	まとめ	作品をみんなに見てもらおう	図工室以外の教室 *どんな飾り方が自分の作品に合うのか考えよう

ねらい

- 匂いのイメージを自分らしい表現で表そうとする。
- 段階（3バージョン）を追って表現することで自分の思いを深めていく。
- 自分の思いに合わせた材料を選択し、工夫して表現する。
- 友達の作品から新たな発想や表現を知る。
- 自分や友達ちの作品と向かい合うことによって、共感し合う。

材料・用具

- 子ども 水彩絵の具、ハサミ、クレヨン、各自の材料箱（材料いろいろ）
- 教師 用紙（サイズ・材質いろいろ）、カラーインク、コンテパステル、のり、立体計画用紙、カメラ、計画用紙にある材料・用具

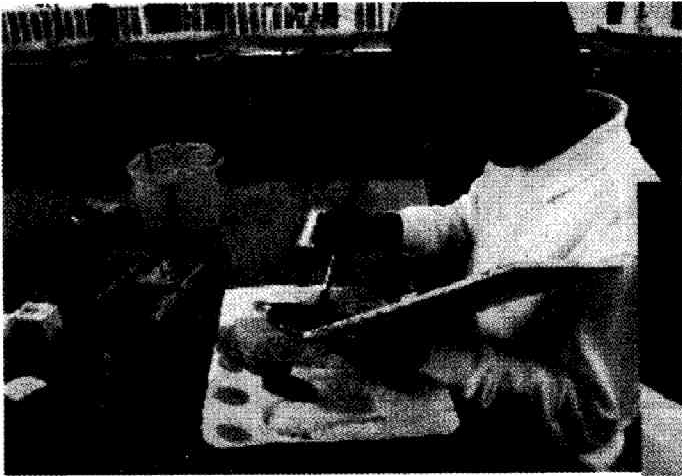
視点の工夫

- ①時をとらえる・・・過去の記憶からイメージを引き出す
- ②空間を生かす・・・材料を選択しやすい教室環境・展示の場の工夫
- ③素材を選ぶ・・・匂いからという意外性・いろいろな材料からの刺激
- ④展開をつくりだす・・・表現手段の選択・友達、教師との感覚の共有

③ 素材を選ぶ	④ 展開をつくりだす
<p>* 匂いのブラックボックス (ゲーム性)</p> <p>* いろいろな紙や色の材料を選んでみよう (異なる大きさ材質の紙、絵の具、クレヨン、パスル、カラーインク)</p>	<p>* 材料を変えながらいくつもつくってみよう (こんなイメージかな)</p> <p>* つくったものはバージョン2・3で使ってもいいよ</p>
<p>用紙も選択してつくってあった色の紙を使って構成しよう</p> <p>* バージョン1と同じ材料を使ってもいいよ</p> <p>(色画用紙使いたい)</p>	<p>* 自分のイメージでいろいろ工夫してみよう (前の時間みたいに描いちゃダメなの)</p> <p>(いらないところ切っていい)</p> <p>(前に使った紙使いたい)</p>
<p>材料を自分なりに工夫し選択して作品をつくろう (材料箱の材料活用)</p> <p>(材料は自分で集めるの)</p> <p>(図工室のあれ使いたい)</p> <p>(あ、こんなのおもしろい)</p>	<p>* つくりながらイメージを広げていこう (計画と違ってきちゃった)</p> <p>(こうしてみよう)</p>
<p>* 匂いのグループごとに展示してみよう</p> <p>(どこにしようかな)</p> <p>(まっすぐ貼るのはいやだな)</p>	<p>* 友達の作品に感想を書こう</p> <p>(同じ匂いでもいろいろな作品になっている)</p>

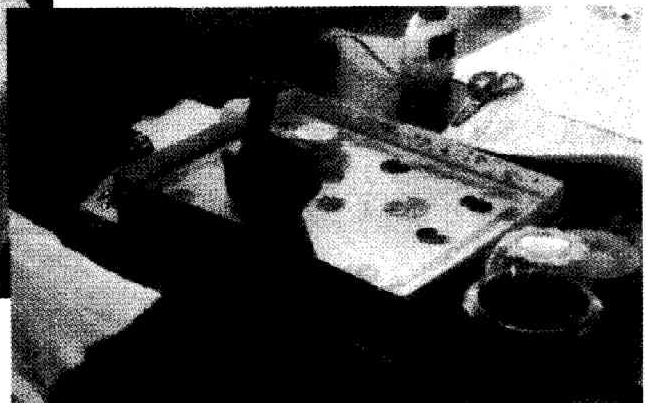
考察

- 《匂い》という形のないものを作品にする。という戸惑いが、始めのうち子どもたちに見られたが、子どもたちの感想に「自分の感じたものを自由に、何をつくってもよいのが楽しかった。」「匂いからイメージするのは難しそうだったけど、おもしろかった。」というものが数多くあった。また、「難しそうだったけどやってみたら以外に簡単だった。」というものもあった。このように子どもたちにとっては、少し難しそうなのをクリアするそんな楽しさがあったようだ。
- イメージしたものをより明確にするために、あえて段階を追った取り組みとして、3バージョンとしたが子どもたちの中では、一つ一つのバージョンごとに気持ちは完結しており、作品はできたという気持ちの様だった。3バージョンのステップを踏まなくても取り組める可能性もあるように思えた。
- ミニ展覧会をすることにより、お互いのよさを見つけたり、アドバイスし合ったりのよい関係がクラスを越えて生まれた。

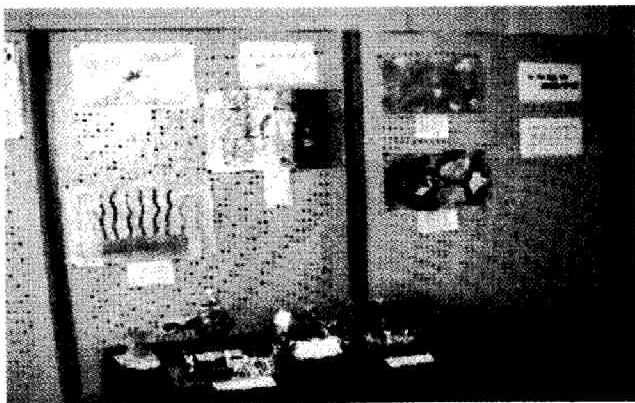


材料の工夫

素材の選択



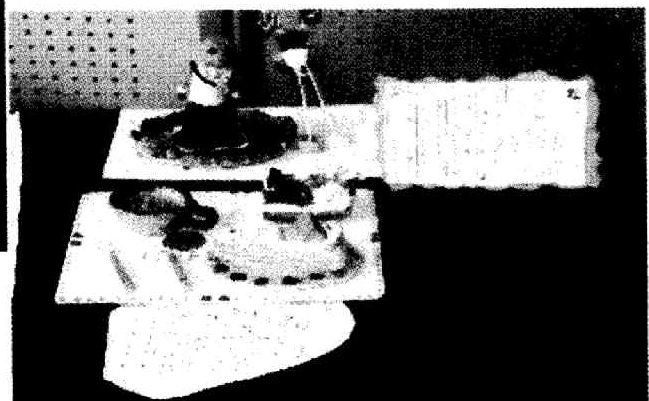
こんなイメージかな



ミニ展覧会

同じ匂いをグループにして展示

コメントも含めて展示の仕方を工夫して自分らしさを出しました。



6 題材名 「なかよしヒーローにへんしん！」 (第2学年)

題材について

低学年の子どもたちの思考や活動の特徴は、ものを考えることと実際の行動とが未分化であり、計画を立てたり、見通しをもって活動をするには不十分である。また、感動や好奇心が旺盛になり、現実と空想が入り交じった直感的な認識や発想でごっこ遊びや見立て遊びなどに夢中になる。今回の題材では、このような子どもの特徴を大事にし、研究の視点の

- ①時をとらえる…子どもの生活の中から引き出す題材(ごっこあそび的要素)・屋外の環境による刺激
- ②空間を生かす…へんしん場所を探しながら活動の場を広げる・使いやすい教室環境
- ③素材を選ぶ…デジタルカメラや拡大プリンタなどを使用して好奇心を刺激・主体的な材料集め
- ④展開をつくりだす…子どもを信じ共感し、共に授業をつくりだす勇気・教師⇄子ども、子ども⇄子どもへの発信受信で、子どもの全身に働きかける工夫。

で、子どもの全身に働きかけるようにした。このように、低学年の図画工作では、子どもの特徴を大切に、様々な感覚を働かせてつくりだす体験や活動で、子どもの感じる心をはぐくんでいきたい。

ねらい

- ・自分の思いや願いを生かして材料や用具を選び、楽しく表すことができる。
- ・つくったものを見ながら、自分が感じたこと思ったことを話したり聞いたりできる。

材料・用具

- 教師 デジタルカメラ、拡大プリンタによる印刷、共同絵の具、接着剤
図工室の材料は、子どもがすぐに使えるように準備しておく。
- 子ども 自分で集めた材料、ハサミ、のり



紙の大きさ 125cm×85cm

学習の流れ（4時間）

	① 時をとらえる	② 空間を生かす
なげかけ	<ul style="list-style-type: none"> ・「なかよしヒーロー」に変身しよう。 ・「なかよしひーろー」のやくそく <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">☆なかよしヒーローは、なかよし。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">☆なかよしヒーローは、おしゃれ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">☆なかよしヒーローは、つよい。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校中を回って変身する場所を探そう。 ・場所が決まったら、変身の時のカッコいいポーズを決めよう。
活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの約束をもとに自分なりのヒーロー・ヒロインのイメージを広げる。 ・グループで自分の思いを話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">テレビの〇〇みたいなヒーローがいい</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">おしゃれならあんな材料を使おうか</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">手には剣を持とうか</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の中や校庭の中で変身する場所をグループごとに探す。 ・変身するときのポーズを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">新しくなった屋上ってきれい</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">校庭の遊具の上でもいいのよ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">秘密の場所をさがそうよ</div>
支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ごっこ遊びや見立て遊びができるように、ヒーロー・ヒロインについて話す。 ・ヒーローの約束に触れながら個人の思いや願いがグループの話し合いに生かせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの環境とのかかわりによってイメージがさらにふくらむようにする。 ・ポーズを取ってカメラに写し拡大することを知らせ意欲付けをする。



③ 素材を選ぶ	④ 展開をつくりだす
<ul style="list-style-type: none"> ・拡大プリンタで大きくした写真から自分をヒーローに変身させよう。 ・魔法の液（アルコール）をぬると写真を白く消すこともできるよ。 ・不透明の共同絵の具も使おう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの用意した材料をどう使おうか。 ・友達といっしょに大きな写真の紙に描くんだよ。 ・変身したヒーローの名前を考えよう。 ・掲示してみんなに見てもらおう。
<ul style="list-style-type: none"> ・拡大された写真、自分の集めた材料や図書室の材料・用具から具体的な発想を広げる。 <div data-bbox="193 891 555 925" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">こんなポーズしたのかな</div> <div data-bbox="193 987 616 1021" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">みんなの写真もおもしろいな</div> <div data-bbox="193 1084 675 1117" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ここを白くして○○を描こうかな</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな材料・用具を使ってヒーローに変身させる。 ・グループでのかかわり合いの中で活動する。 <div data-bbox="786 846 1114 880" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">その材料かっこいいね</div> <div data-bbox="786 943 1145 976" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">この材料と交換しようよ</div> <div data-bbox="786 1039 1294 1072" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">この次はあんな材料を持ってこよう</div> <div data-bbox="786 1135 1145 1169" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">どんな名前にしようかな</div>
<ul style="list-style-type: none"> ・アルコールが垂れないように容器やバケツ、お盆を用意する。 ・不透明絵の具をとるカップ・太筆を用意し、使い方の説明をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の活動を共感的な態度で見守る。 ・接着方法などは個別指導する。 ・ヒーローの3つの約束に触れながらグループ活動を支援する。 ・掲示場所の提案をする。

考察

屋外のへんしん場所で、ちょっと照れながらも得意げにポーズを取る子どもたち。拡大プリンタの大きな写真にびっくりしたり、友達のグループの写真を見て歓声をあげたりする子どもたち。

活動の最初の時間は、自分の持ち寄った材料を付けたり、カラーペンなどを使った活動だったが、魔法の絵の具（アルコールを塗って白く抜く！）や不透明の絵の具を使い始めると、体全体を使うようなダイナミックな活動になった。題名もリボンをたくさん飾りに使った「リボンウーマン」や赤の絵の具や折り紙を付けた「ファイアーマン」など、それぞれの思いの題名が付いた。

Ⅲ 研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

本研究では、子どもの「感じる心」をはぐくむためには適切な刺激にふれさせることが大切であると考え、特に“場や環境”という点に着目し、それをどのように工夫し授業に生かすことができるのか、実践授業を通して研究を深めていった。その結果、次の点がまとめとして得られた。

《“時間（いつ）”の工夫について》

花の咲く季節や落ち葉の舞い降りる季節、晴の日や雨の日、太陽の位置等、活動の内容により、季節や気象条件、時間帯、学年における発達の段階等を考慮し、それらを生かした活動を取り入れることによって、子どもの感性を刺激することができた。

《“空間（どこで）”の工夫について》

例えば、屋内か屋外かによっても子どもの心は大きく変化をする。“かべ土のへんしん”の授業では、完成した作品を屋外に展示することにより、作品と場とのかかわりについての考えや思いを深めることができた。

《“素材（なにを）”の工夫について》

良い教材との出会いは子どもの心を動かし、「さわってみたい」「おもしろそうだ」「なんだらう」等、表現活動への関心や意欲を大きく高めた。子どもたちは、“かべ土”に対して、単なる“壁に塗布する建築材”ではなく、“ふわふわざらざらの全く新しい素材”として豊かな発想でとらえ、意欲的に活動する姿が見られた。

《“展開（どうする）”の工夫について》

子どもたちは常に「つくりながら考え、考えながらつくる」ということを繰り返している。これは、子ども一人一人が目標をもち、その課題を解決するためにさまざまに試行錯誤を繰り返しているとも言える。そうした活動ができるよう円滑で弾力的な流れをつくり出して行くことが大切であることが分かった。

また、“導入－展開－まとめ”のすべての段階で、子どもたちの発する心情や感情などの信号をすばやく受信把握し、それに対して的確かつ柔軟に指導・助言そして共感していくことが、“子どもとともにつくりあげる授業”にするためには必要不可欠のものであることも明らかになった。

2 今後の課題

「感じる心」をはぐくむために研究の過程で子どもに様々な働きかけをしてきた。今後は、それらを他の場面においても応用できるようにすることが必要になると考えられる。

そして、子どもには、図画工作科ではぐくまれた“豊かな心”をもとに、様々な場面にも生かすことのできるような力をいかに付けさせるかが大きな課題である。